

にほん い  
日本でシングルマザーとして生きること

あかいし ち えこ  
赤石 千衣子

さいきん ひんこん かくさ たいげん そんざい げんきゅう  
最近では「**貧困**」「**格差**」を**体現**する存在として言及される**シングル**  
マザー。必死で生活**を維持**する彼女たちの姿は、現代**日本社会**で  
じよせい じょうきょう しゆくず  
女性たちをめぐる**状況**の**縮図**でもある。

ひんこん  
「がんばっている」と「**貧困**」「**かわいそう**」のはざま

にほん い  
日本でシングルマザーとして生きること、それはいかなるものなのか、  
ふく つた  
ニュアンスを含めて伝えるのはむずかしい。

にほん おお たいへん じょうきょう なか  
日本でも多くの**シングルマザー**は、**大変**な**状況**の中**でも**なんとか  
こ そだ しゃかいてき てあて  
子どもを育てているし、**社会的**な**手当**も**ゼロ**ではないのでそれなりの  
しえん う たの いきい く  
**支援**も受けている。楽しみもあるし、**生き生き**暮らす**シングルマザー**も  
たほう ひんこんりつ パーセント ひょうしょう  
たくさんいる。他方では、**貧困率** **54.6%** に**表象**されているが、  
せいかつ くる きぼう い じょうたい ひと せいかつ  
**生活**が**苦しく****希望**がなく、**なんとか**生きている**状態**の人もいる。**生活**  
はたん きき てきじょうきょう おちい かてい  
が**破綻**し**さまざま**な**危機的** **状況**に**陥**っている**家庭**もある。

じょう るふ げんせつ  
しかし**ネット**上**で****流布**されている**シングルマザー**にかかわる**言説**は「  
しんどい ひんこん いきい  
**しんどい**」「**貧困**」か、あるいは「**がんばっている**」「**生き生き**」に  
ぶんれつ ほんとう  
**分裂**しているのである。どちらが**本当**なのだろうか。

ぎやつきょう  
**逆境**だからこそ「**がんばっている****シングルマザー**」はいる。また、  
じぶん ひょうげん い きりよく ぐず  
**自分**を**表現**するとき**にしんどい**と言ったら**気力**が**崩**れてしまうような

きも いっぽう おっと よくあつ かいほう びんぼう  
 気持ちもあるのである。一方で夫の抑圧から解放されて、貧乏でも  
 いきい く ほんとう  
 生き生き暮らしているということも本当なのである。

シングルマザーは、「しんどい」「<sup>ひんこん</sup>貧困」と「<sup>が</sup>んばっている」の  
<sup>りょうきよく</sup>両極 <sup>ひょうげん</sup>で表現 <sup>せいかつ</sup>される、<sup>せいかつ</sup>きわどい生活 <sup>せいかつ</sup>をしているといえる。その生活は  
<sup>がくれき</sup>「<sup>しんぞくしえん</sup>学歴」<sup>けいぞくしゅうろう</sup>「<sup>いな</sup>親族支援」<sup>おお</sup>「<sup>こと</sup>継続就労か否か」によって大きく異なる  
<sup>じょうきょう</sup>状況 <sup>が</sup>ある。

シングルマザーの大半が働くが、就労収入は低空飛行  
<sup>とし</sup>5年 <sup>おこな</sup>ごとに行われている「<sup>ぜんこくほし</sup>全国 <sup>せたい</sup>母子世帯等 <sup>とうちようさ</sup>調査」(<sup>こうせいろうどうしやう</sup>厚生労働省)の  
<sup>ねんど</sup>2011年度 <sup>ちょうさ</sup>調査によると、<sup>にほん</sup>日本の <sup>ほし</sup>シングルマザー (<sup>いがい</sup>母子以外の <sup>どうきよしや</sup>同居者)が  
<sup>ばあい</sup>いる場合 <sup>ふく</sup>も含め、<sup>とし</sup>20歳 <sup>い</sup>以下の <sup>こ</sup>子ども <sup>ほし</sup>がいる <sup>せたい</sup>母子世帯 (<sup>かず</sup>の数 <sup>まん</sup>は123万8000  
<sup>せたい</sup>世帯 (<sup>ふし</sup>父子世帯 <sup>せたい</sup>は22万3000世帯) <sup>ねんねん</sup>であり、<sup>ぞうか</sup>年々 <sup>とし</sup>増加 <sup>と</sup>している。1973年  
<sup>とうじ</sup>当時 <sup>ひかく</sup>と比較 <sup>やくに</sup>すると <sup>ばい</sup>約2倍 <sup>と</sup>なっている。

<sup>へいぎん</sup>シングルマザーの <sup>ねんれい</sup>平均年齢 <sup>とし</sup>は40歳 <sup>おや</sup>で、<sup>けい</sup>ひとり親 <sup>りこん</sup>になった <sup>けい</sup>経緯 <sup>り</sup>は、<sup>り</sup>離婚  
<sup>パーセント</sup>による <sup>つづ</sup>ものが <sup>ひ</sup>80.8% <sup>ひ</sup>で、<sup>ひ</sup>続いて <sup>ひ</sup>非婚 <sup>しゅっさん</sup>の出産 <sup>パーセント</sup> <sup>しべつ</sup>7.8% <sup>しべつ</sup>、<sup>しべつ</sup>死別 <sup>しべつ</sup>7.5  
<sup>パーセント</sup>% <sup>つづ</sup>と <sup>つづ</sup>続く。

<sup>ねんしゅう</sup>シングルマザーの <sup>まんえん</sup>年収 <sup>じどう</sup>は223万円 <sup>ふよう</sup>である (<sup>てあて</sup>児童扶養手当 <sup>ねんぎん</sup>や <sup>せい</sup>年金 <sup>せい</sup>生活  
<sup>ほご</sup>保護費 <sup>ひ</sup>などの <sup>しゃかい</sup>社会 <sup>ほしょう</sup>保障 <sup>きゅうふ</sup>給付 <sup>よういく</sup>や <sup>しおく</sup>養育費 <sup>ふく</sup>・ <sup>がく</sup>仕送り <sup>がく</sup>など <sup>がく</sup>を含めた <sup>がく</sup>額)。  
<sup>しゅうろうりつ</sup>就労率 <sup>パーセント</sup> <sup>たか</sup>は80.6% <sup>へいぎん</sup>と <sup>しゅうろう</sup>高い <sup>ねんしゅう</sup>が <sup>まんえん</sup>平均 <sup>ひく</sup>就労 <sup>ひく</sup>年収 <sup>ひく</sup>は181万円 <sup>ひく</sup>と <sup>ひく</sup>低い。

<sup>じょうきょう</sup>この <sup>じよせい</sup>状況 <sup>ちんぎん</sup>は、<sup>やす</sup>女性 <sup>かんけい</sup>の <sup>かんけい</sup>賃金 <sup>かんけい</sup>その <sup>かんけい</sup>ものが <sup>かんけい</sup>安い <sup>かんけい</sup>ことが <sup>かんけい</sup>関係 <sup>かんけい</sup>している。

とし みんかんきゅうよじつたいとうけい ちょうさ こくぜいちょう ねんしゅう  
 2010年の「民間給与実態統計調査」(国税庁)によれば年収 200  
 まんえんいか はたら じよせい わりあい やく パーセント ねんねんひ せいぎ  
 万円以下で働く女性の割合は約43% である。しかも、年々非正規  
 はたら だんじよ ふ はたら じよせい わりちか ひ せいぎ ろうどうしゃ  
 で働く男女が増え、働く女性のうち7割近くが非正規労働者である。  
 じつ ひんこん じよせいぜんたい にほん  
 実は、シングルマザーが貧困であるというより、女性全体が日本では  
 ひんこん  
 貧困なのである。

にほん だんじよ ちんぎんかくさ おお く に とく こそだ  
 日本は男女の賃金格差が大きい国であるといわれているが、特に子育て  
 ちゅう だんじよ ちんぎんかくさ み にほん じよせい だんせい わり ひく  
 中の男女の賃金格差を見ると、日本の女性は男性よりも6割も低い  
 すうじ にほん とく ははおや たか  
 数字だ。このため、日本では特に「母親であることは高くつく」といわ  
 とし とうけい  
 れている(OECD 2012年の統計による)。

### ねづよ だんせいかせ めし しわよ 根強い「男性稼ぎ主システム」のしわ寄せ

じよせい ちんぎん ひく とく こそだ じよせい ちんぎん ひく  
 こうした女性の賃金が低く、特に子育てしている女性の賃金が低いのは  
 だんせいかせ めし にほん ねづよ にほん こうど  
 、「男性稼ぎ主」システムが日本に根強いからである。日本では、高度  
 けいざいせいちょうき ちょうじかんろうどう おっと むぎょう ほじよ てき しごと  
 経済成長期に、長時間労働をする夫と無業あるいは補助的な仕事を  
 かじ いくじ かいご ひきう つま こ かぞく  
 して家事育児介護をすべて引き受ける妻、そして子どもという家族を  
 ひょうじゆん だんせいかせ めし ねんきん だいさん  
 標準モデルとする男性稼ぎ主システムをつくりあげた。年金の第三  
 ごうひ ほけん しゃ ぜいせい はいぐうしゃこうじよ ちんぎん はいぐうしゃてあて  
 号被保険者、税制の配偶者控除、賃金の配偶者手当などがこの  
 ささ おお ようそ  
 システムを支える大きな要素である。

げんざい にほん じよせい けつこん しゅつさんき わり たいしよく せんぎょうしゅふ  
 現在も日本の女性は、結婚と出産期に6割が退職し専業主婦と  
 じよせい ねんれいべつろうどうりよくりつ えむじ がた えが つづ  
 なるため、女性の年齢別労働力率はM字型カーブを描き続けている

。

こうした働き方と社会 保障 における男女 の生き方を規制してきた男性  
 稼ぎ主システムにより、もっともしわ寄せを食っているのがシングル  
 マザーである。子育て中 の女性 には補助的 な仕事しか与えない労働  
 市場 で、子どもを育てるために賃金 を得ていかねばならない。結婚  
 出産 で仕事を辞めず継続 就労 してきた女性は離婚しても経済 的  
 ダメージは比較的少ない。

### シングルマザーの「階層」問題

働くシングルマザーのうち、約4割が正社員 等で、5割以上 は非正規で  
 働いている。この割合 は年々 非正規が多くなっている。

パート、アルバイトで働くシングルマザーの平均 年収 は125万円である  
 。正社員 で働くシングルマザーの平均 年収 270万円に比較して、各段  
 に少ない。

もうひとつ注目 すべきなのは、シングルマザーのいわば階層 の問題 で  
 ある。シングルマザーのうち中学校 卒業 の学歴 の人は比較的多く、  
 13.3% である (シングルファーザーは15.4% )。ふたり親 世帯の  
 母親 の学歴 では中卒 は5% であるという。

中学校 卒業 が最終 学歴 のシングルマザーの平均 年収 は129万円で  
 ある。日本では中卒 では、取得 できる資格が限られており、職種 も

げんてい ひ しゅうろう ひと はたら ひ せいき ひと おお けっか しゅうにゅう  
 限定され、非就労 の人や働いても非正規の人が多くその結果収入 も  
 ひく  
 低い。

おっと りこん こ ふ とうこう のりこ  
ギャンブルにはまった夫 と離婚、子どもの不登校 も乗り越える  
 じっさい せいかつ しょうかい  
 実際 にシングルマザーの生活 を紹介 したい。

げんざい だいがくせい こうこうせい こ  
 Aさんは現在 大学生 と高校生 の子どもがいるシングルマザーである。

こうこうそつぎょうご しゅうしょく かいしゃ せいしゃいん おっと  
 高校 卒業 後就職 したイベント会社 では正社員 だったが、夫 (   
 こうむいん てんきん しごと や だい こ さとがえ しゅつさんじ おっと  
 公務員 ) の転勤 により仕事を辞めた。第1子の里帰り出産 時に夫 が  
 て だ こ つ かえ しょうひしゃきんゆう  
 ギャンブルに手を出し、子どもを連れて帰ったときには消費 者金融 から  
 しゃつきん すうひやくまんえん のぼ しんぞく しえん え へんさい さいむ せいり  
 の借金 が数百 万円に上った。親族 の支援を得て返済、債務整理して  
 にど やくそく おっと だい こ しゅつさんじ  
 ギャンブルは二度としないという約束 をした夫 は、第2子出産 時に  
 て こんど やみきん か  
 またもやギャンブルに手をだし、今度はいわゆる闇金 から借りていた。  
 やみきん とりた きび ふゆ と いえ こ えい  
 闇金 の取り立ては厳しい。冬にガスが止められた家で、子どもとAさん  
 ふる とりた く おとこ いるす つか  
 は震えながら取り立てに来る男 たちに居留守を使ったという。

えい ちから としよかん じょうほう え りこん  
 しかしAさんは力 があった。図書館で情報 を得て、離婚するしかない  
 おも りょうしん いえ もど ちょうてい へ りこん さいしょ はけん しゃいん  
 と思い、両親 の家に戻り、調停 を経て離婚。最初は派遣社員 でしか  
 やと こ びょうき にゆういん つきそ ひつよう しごと  
 雇ってもらえず、子どもが病気で入院 すれば、付き添いが必要 で仕事  
 けいぞく こんなん こ しょうがっこう はい ちゅうしょうきぎょう  
 の継続 は困難 だった。子どもが小学校 に入ったころに、中小 企業  
 せいしゃいん しごと いちおうあんてい  
 の正社員 になり仕事は一応 安定した。

じょう こ ぶじ こうりつこうこう う そのご げんいん ふ とうこう  
 上 の子は無事公立 高校 に受かるが、その後さまざま原因 で不登校 に

なっていた。そして親おや おこに怒られて家出してしまう。しかし、彼かれを  
 フォローする大人もいて、無事に家おとなに戻り、その後ぶじ いえ もどは学習そのご 支援がくしゅうしえんの場も  
 あって通信つうしんこうこう 高校そつぎょう を卒業だいがく 、大学しんがく に進学した。

借金しゃっきん による離婚りこんは多い。その後おお、離婚後そのご 仕事りこん が安定ご するまでの困難しごと 期あんてい  
 とともに、その後そのご の子どもこ が思春ししゅんき 期の困難こなんんき 期ばあい がある。Aさんおつと の場合は夫  
 の借金しゃっきん という危機きき に対応たいおう する力ちから があり、またその後そのご の生活せいかつ の中で  
 さまざまにんげんかんけい な人間こ 関係ししゅんき をつくっていたので、子どもきき の思春こ 期の危機ししゅんき にも  
 対応たいおう することができた。生活せいかつ は楽らく ではない。子どもこ の大学だいがく 進学しんがく 費用ひよう は  
 、教育きょういく ローンにほん と日本がくせいしえん 学生きこう 支援しょうがくきん 機構か の奨学こうしゃ 金を を借りている。後者こ は  
 子どもへんさい に返済ぎむ の義務おも が重い。

夫おつと の暴力ぼうりょく で離婚りこん 後も生活ご の苦勞せいかつ が続くくろう つづ

ドメスティックバイオレンス (DV) による離婚りこん も多い。司法統計おお によるしほう  
 と婚姻こんいん 関係かんけい 事件じけん の申立もうした 動機別どうき の割合べつ では、「性格わりあい が合わない」  
 とともに「暴力ぼうりょく を振るう」「精神せいしん 的に虐待てき する」「生活せいかつ 費ひ を渡さ  
 ない」などの理由りゆう が多い。おお

Bさんは、4人よんにん の子どもこ を連れて離婚つ した。元夫りこん は農家もとお の長男のうか で結婚ちょうなん と  
 同時どうじ に両親りょうしん と同居どうきよ した。「嫁よめ」の立場たちば のBさんは、風呂ふろ を薪たきぎ で炊き  
 入浴にゅうよく できるのは最後さいご で、体からだ が浸つ かる湯ゆ もなかったという。4人よんにん の  
 子どもこ が生まれう たが「嫁よめ」いじめた に耐えきれず、夫おつと の両親りょうしん と別居べつきよ した  
 。その頃ころ から夫おつと が転職てんしよく 、仕事しごと がうまくいけなくなり、借金しゃっきん とともに

ぼうりよく ぼうげん はじ おっと ぼうりよく けいさつ よ ベっきょ りこん ご  
 暴力・暴言が始まった。夫の暴力で警察を呼んで別居。離婚後に  
 レストランのウェイトレスをして得る収入は5万?6万円だった。上の  
 おとこのこ いもうと おとうと ぼうりよく じゅうぶん はたら じょうたい  
 男の子による妹、弟への暴力もあり、充分に働けない状態が  
 つづ  
 続いている。

ひがい う りこん えいきょう つづ  
 DV被害を受けたあと離婚したとしてもその影響は続いている。Bさんの  
 こ ばあい ひがい ご う すく  
 子どもの場合もそうだが、被害後のケアを受けられるチャンスは少ない。

じどう ふよう てあて じゅうじつはば かぞく かん しゃかい いしき  
 児童扶養手当の充実 阻む家族観・社会意識

にほん こんなん しゃかい ほしょう すく  
 日本のシングルマザーのさらなる困難は、社会保障が少ない、という  
 ことである。シングルマザーが働いて得られる収入はそれほど多く  
 はたら え しゅうにゆう おお  
 なくても、税・社会保障によって貧困率が改善する国は多い。しかし  
 ぜい しゃかい ほしょう ひんこんりつ かいぜん くに おお  
 、日本の場合には、それほど期待できないのだ。

ぬし りこん おやかてい しきゆう じどう ふよう てあて いったいしよとく  
 主に離婚したひとり親家庭に支給される児童扶養手当や、一定所得  
 いか こ かねい しきゆう じどう てあて せいかつ ささ いったぼう  
 以下の子どものいる家庭に支給される児童手当が生活を支えるが、一方  
 こくみんけんこうほけん りょう ねんきんほけん りょう ていしゅうにゆう かねい おも  
 では国民健康保険料や年金保険料などは、低収入の家庭にも重く  
 しゅうがく えんじょ こうとうきょういく じこ ふたん りつ  
 のしかかっている。就学援助はあるものの、高等教育は自己負担率  
 たか けつか ひんこんりつ かいぜん じょうきょう  
 が高い。こうした結果、貧困率は改善されない状況なのである。

じどう ふよう てあて じゅうじつ もと せいさく たんとうしゃ じどう  
 わたしは児童扶養手当などの充実を求めてきた。政策の担当者も児童  
 ふよう てあて かくじゅう ひんこん かいぜん  
 扶養手当の拡充により、シングルマザーの貧困が改善することはよく  
 じつげん にほん しゃかい  
 わかっている。にもかかわらずそれが実現できないのは、日本社会

そのものにある<sup>かぞく かん</sup>家族観と「<sup>りこん</sup>離婚は<sup>じこ</sup>自己<sup>せきにん</sup>責任である」という<sup>しゃかい いしき</sup>社会意識が  
あるからだと<sup>かん</sup>感じている。